

年が明け、今沖縄は辺野古移設問題で大きく揺れています。目まぐるしく変わる時の政権によって、二転三転した普天間基地の移設、辺野古埋め立て問題は一般市民を巻き込んで地域内に大きな感情的しこりを残しました。決断をせずに、徒に先送りしてきた中央政府の怠慢が県民に与えた苦しみ、悲しみは計り知れません。県民同士がいがみ合う姿を見ていると、とても悲しい気持ちになります。いつの日か、穏やかな日が返ってくる事を願って止みません。

第44回全国学校保健学校医大会報告では秋田県で実施されているインフルエンザなどの感染症モニタリング事業が目を引きまします。既存のネットシステムを利用して出来る様なので沖縄県でも比較的容易に導入可能なのではないのでしょうか。平成25年全国医師会勤務医部会連絡協議会では女性医師を含めた勤務医就労支援について様々な議論があったようです。日本において医師のキャリアは、専門医師からジェネラリストまで自分のライフスパンの中で比較的容易に移行できます。医師としてのキャリアを開始した時点で分岐し、将来交わる事のない諸外国の医師キャリアと大きく違い、医師のライフワークバランスを考える際に選択肢が広がります。今後そのキャリア熟成をどのように支援するかが課題ですね。平成25年度有床担当理事連絡協議会では、防火対策強化について、入院基本料の問題、管理栄養士確保の問題など、現状として窮地に立たされている有床診療所運営の悲痛な訴えが聞かれます。このままでは有床診療所は無くなってしまい、特に医療資源の少ない僻地の医療において深刻な事態に発展する事は間違いありません。平成25年度都道府県医師会長協議会では日本医学会の今後のあり方に関しての議論があったようです。日本医師会から日本医学会を分離させる事によって生じる様々な問題を、互いに強く連携する事によって上手に回避していただきたいと思います。平成25年度都道府県医師会感染症危機管理担当理事連絡協議会では新型インフルエンザに対する具体的なアクションが議論されています。平成25年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会報告では医療事故調査制度に関して議論があり、第三者機関による調査報告をどの様に扱うべきかについて活発な意見交換が行われています。また、新しい専門医制度に関しての意見の中には19番目の専門医として位置付けられている総合診療医に対し、「何でも診れるとは、何にも診れないに等しい」という厳しい意見が聞かれます。しかし、総合医、総合診療医は医療資源の乏しい地域において絶大な力を発揮するはずで、ジェネラリストの育成という方向性は間違っていないと思います。九州医師会連合会第337回常任委員会では各種表彰者、各種

協議会の開催、フィリピン台風被害への義援金などについて議論されています。第113回九州医師会総会および関連事業では沖縄県で行われた協議会の事が報告されています。次期診療報酬改定、控除対象外消費税への対策など重要な問題が山積しています。平成25年度九州学校検診協議会では学校現場に設置されたAEDの評価が議論されたとの事です。平成25年度第5回沖縄県、沖縄県医師会連絡会議ではおきなわ万国津梁ネットワークへの参加協力について県に要望したとの報告があり、県からは医療勤務環境改善推進事業についての説明がありました。勤務医を含めた医療勤務環境改善に向けて期待したいと思います。平成25年度沖縄県総合防災訓練、緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練報告では、沖縄JMATチームが泥だらけになりながら奮闘した実働訓練の様子が報告されています。平成25年度永年勤続医療従事者表彰式では253名の方達が表彰されています。一つの医療機関に20年以上勤続するという事はすばらしい事です。折角採用しても、2~3年で辞めてしまうスタッフが多く、医療現場で働くという事の神髄を見る事も無く現場を移り変わる事に無念さを感じる今日この頃、大変すばらしい事だと思います。すなわち内科クリニックの砂川博司先生には糖尿病連携パスの運用実践についてご寄稿いただきました。友寄英毅先生の日本医師会最高優功賞、新垣善一先生の旭日双光章受章祝賀会の模様も報告されています。おめでとうございます。

平成25年度第3回マスコミとの懇談会は高齢出産について、県民との懇談会は出生前診断について取り上げました、いずれも関心が高く、参加者も多かった印象です。表紙写真の年間グランプリは厳正な審査の結果とよみ生協病院の原国政裕先生が受賞されました。プライマリーケアコーナーには悩ましい2型糖尿病薬物療法開始時の薬剤選択に関して中頭病院の湧田健一郎先生に書いていただきました。インタビューコーナーでは泌尿器科医会会長の外間実裕先生にお話を伺いました。外間先生は那覇市医師会で災害医療担当としても積極的に訓練に参加し、JMATチームの要としてもご活躍です。月間行事お知らせコーナーではアレルギー週間という事で耳鼻科領域からやぎSUNクリニックの屋宜晃先生、眼科領域からまえた眼科の真栄田義敦先生に最新の情報を織り混ぜて書いて頂いております。随筆では趣味の野鳥観察について中頭病院の平安山英義先生に、おしっこのお話を県立南部医療センターこども医療センターの長田信洋先生にご寄稿いただきました。ご多忙の中、会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

広報委員 玉井 修